

聖化

Japan Holiness Association

【発行】日本聖化協力会

2018.9.25
No.64



「聖く歩む」をどう示し、語るか

イムマヌエル綜合伝道団

内山 勝

「あの方は、きっと神の聖なる方に違いありません。」(第二列王記四章9節)

*

神の聖い人は、本当にこの世にいますか。これは私が高校生時代に抱いた疑問でした。聖書には、聖くなければ神とまみえることができないと書いてあります。そもそも、神が聖なる方なので、私たちにも聖くあることが求められているのは当然のことです。

ですから、およそ真剣に聖書のみことばを信じて、神さまに喜ばれる生き方をしたいと願う求めているクリスチャンなら誰でも、別に「きよめ派」でなくても、聖くありたいと願うはずで、この点において、私たちはもっと謙虚になるべきでしょう。あたかも、きよめ派以外のクリスチャンは聖い生き方を求めていると決めつけるようなことをしてはならないということです。

むしろ、すべてのクリスチャンが追い求めている聖い生活を、私たちが共に追い求めて行くこととする姿勢が求められているように感じます。その上で、イエスさまのからだの一部分である私たちが、どのような役割を果たせば良いのかを、改めて問う必要があると思います。

きよめ派だから、きよめを語ったり追求するのではありません。一人の救われた罪人として純粋に、聖い生活を追い求めるのです。キリストのからだとして、聖い共同体を求めたいのです。

そのような姿勢であれば、私たちの語る「きよめ」は、全てのクリスチャンから支持されるものになるはずで、私たちが、極力、きよめ派が使う独特の用語や解釈を多用せずに、誰もが理解できる用語、納得できる解釈で、フツウにきよめを語るべきではないでしょうか。

*

最初の質問に戻ります。

これは教理の問題ではありません。聖書が教える聖い道を歩んでいる人が、本当にこの世にいますか。それは理屈ではなく、一目瞭然の世界です。残念ながら、私の高校時代にそのような人を見いだすことはできませんでした。その原因は、私の偏った理想主義という眼鏡のせいでした。しかし、その偏りをもたらしたのは、当時の説教者たちであったように思います。今、説教者に求められているのは、聖く歩むとはどういうことかを実際に生活し、それを等身大で平易に語ることはないかと、自戒させられています。

もくじ

- 巻頭言メッセージ…………… p.1
- 「聖化」の継承 神学校の取り組み … p.2-3
- 栄光に輝く宝をこの土の器に(証し) … p.4-5
- ハリマン博士紹介、2018年講師 …… p.6
- バックストンゆかりの松江を訪ねて …… p.7
- 聖化大会日程、書籍案内、編集後記 … p.8

神学校の取り組み

と、それに基づくパネル・ディスカッションでした。「聖化」の継承のためには大切なテーマでしたので、毎号2校ずつ神学校の「聖化」の取り組みを連載し、紹介していきます。

恵みの奉仕者になることを目指し

イムマヌエル聖宣神学神学院

院長 河村 従彦



聖化はイエスさまに出会い、イエスさまを生きたる

聖宣神学院は、教団の使命である「聖と宣」（聖書・聖化、宣教）をコンセプトに神学教育がなされています。

カリキュラムは、初代メソジストの信仰と実践、そしてウエスレアン神学を土台にしています。たとえば、「ホーリネスと聖書」（聖書学的アプローチ）、「ホーリネスと神学」（組織神学的アプローチ）、「教理」（ウエスレアン神学における救い）、「メソジズム」（メソジスト史、メソジスト神学）などです。さらに、自己洞察による人間理解を深め、現代的課題に向き合うために、「牧会学特論」（ホーリネスと人間性の理解、心理学的アプローチ）のクラスも開講されています。

「聖と宣」は大切なメッセージですが、ただ継承するのではなく、現代に意味あるものとしてとらえるため、その内容を以下のように理解します（神学院のパフレットから引用）。

テーマ「恵みによって活かされるメソジストの奉仕者の養成を目指して」
一人ひとりが神さまの恵みの資源として活かされる、主が創造してください

つたように自分の存在を受け止める
2 恵みによってホーリネスに生きる（ブレイクネス（破れ）からホールネス（統合）へ）

3 プロフェッショナルとしての自律性を身につける（教会に仕える専門職として責任ある奉仕ができるために）
4 今の時代に恵みを伝える（現場・受け手の視点からメッセージを伝えるために）

聖化は「生きるスタンス」、また体験に基づく純粹に霊的なもので、すべて神さまの恵みのみわざです。ですから命題にして「こういうものです」と教えることはほぼ不可能です。また、教える接点だけでは指導が指導を生む「指導」の連鎖が生じ、それが将来の牧会スタイルに影響する可能性も否定できません。「聖められるこうなる」という厳格さだけを生活の中に求めれば、恵みよりも基準が先行し、聖化がかけ声だけになる可能性もあります。

実践的には、聖化の信仰を、「イエスさまに出会い、イエスさまを生きる」という視点でとらえるのが現実的であると思います。聖められると、他の人よりも一段高くなるというイメージも

ありました。しかし、私という人間がありのまま生きる、すなわちパーソナリティ形成や関係性がより重要になってくると感じます。上に従うことの大切さを認識しつつ、下の者を生かすというキリスト論的な視点、伝えられることによって伝えることを知るとい「仕える」連鎖もどこかにほしいのです。「牧された味」が牧することの前提だからです。その意味で「キリスト論」のクラスも重要な一コマです。

神学教育環境では信頼関係が欠かせません。「教える側」（わかっている人）と「教えられる側」（わかっていない人）という構図だけでは、いつか自己撞着に陥ります。教師は、学生に求める以上に自らのありようを問い、自己洞察をふまえてクラスや生活の中で学生を理解し、学生を愛し、学生から教えられ、そして学院で学んでくださった方々が自分のありのままと自分の弱さを認めた暖かい恵みの奉仕者として巣立ってほしいと願っています。神学教育の奉仕は人間わざでは不可能で、欠け多き自己の受け止めと恵みへの信頼が唯一の可能性であると信じて格闘しています。

特集 「聖化」の継承

昨年3月6日の日本聖化協力会評議員会の折りに第一回「聖化フォーラム」が行われました。各神学校で聖化をどのように教えているかのプレゼンテーション

ユニークな協力体制にも聖化の証しが

基督兄弟団聖書学院

教師 中島 真実



基督兄弟団聖書学院は2015年度、3・1制と呼ばれる今までにないユニークな教育体制に移行しました(体制作りは2010年度から、また、正式名称は2017年度から)。入学者は3年間、東京聖書学院で学びと訓練を受けて後、最後の1年間、羽鳥聖書学院で学びと訓練を受けるというものです。先の3年間で牧師となるのに必要な神学教育を受けて、後の1年間で教団人となるのに必要な事柄、また、より実践に即した訓練を受ける、と言えば良いでしょうか。けれども、これは所謂「委託制度」とは異なり、修養生は東京聖書学院在学中より基督兄弟団聖書学院の修養生として学び、その時点より基督兄弟団聖書学院の教師がメンターのように関わっていくシステムです。従って、修養生は在学中、二重学籍を持ち、卒業すれば、両校卒業ということになります(もちろん、入試も2回受験、両校合格が求められます)。これは、献身者不足、牧師高齢化、無牧兼牧教会増加といった厳しい局面の中で、教団立の神学校3〜4年課程を維持していくことが人材的・財政的に困難を覚える事情から生

み出されたシステムで、東京聖書学院からのご理解をいただいで実現したものです。その真価は今後の歩みの中で問われていくこととなります。

そこで、こうした協力体制における聖化教育ということですが、まず、協力を敷くということ自体、聖化理解に大差なしという互いの認識があることを意味します。すなわち、神の恩寵が人格のさらなる深みにまで及ぶこと、新生経験の意義が改めて生き生きと受け止め直されること、生ける主の臨在の中で信仰の歩みが成長すること、「四重の福音」という伝統的な表現の中で位置づけられること、など。確かに、基督兄弟団において聖化は再臨と絡めて語られることが多かった事実は、ある種の特徴を形づくっているかもしれません。けれども、そこを特化して突出させるといって、協力体制における交わりの中で、より豊かに視野の開かれた聖化理解がなされていくようにと願っています。

聖化教育として、修養生は東京聖書学院での科目、「神学概論」、「聖化論」、「ウエスレー神学」を受講することも、「ホーリネス強調週間」やリトリ-

トでの聖会に出席して、聖化を体験的に深める機会が与えられます。この「ホーリネス強調週間」やリトリートには基督兄弟団聖書学院教師会も参加・協力させていただき、説教を通しての交わり、修養生の面接への陪席など、聖化教育に参画させていただいています。また、最後の1年、羽鳥聖書学院においては、「教団史」のクラスにおいて聖化理解の教団史における展開と課題、「教憲」のクラスにおいて教団信仰の中での聖化の位置づけと意義、また、諸信条・信仰告白文との比較において教理史的に学び取れる事柄などを扱います。もちろんのこと、教会奉仕の実習や寮生活を通して、修養生は教会の現場・生活の現場において聖化を学び、その信仰に生きてこれら身につけることが求められています。

難局打開の必要から生まれたユニークな協力体制ですが、主の導きと信じ、これを進めたく願います。そして、その中で聖化教育は、聖化理解の豊かさを求めるという意味で、また、協力体制という一致を求める姿において、それ自体が聖化の証しであることができるようにと期待されています。

「私たちはこの宝を土の器の中に入れていきます。」

(第二コリント四章7節)

宮城聖化校友会は今年で30周年を迎えます。今日までの主の恵みはもちろんのこと、多くの聖徒方のお祈りと御指導、御協力を感謝いたします。

◆異教の中からキリストの救いに

83歳の現在、「外なる人は衰えても、内なる人は日々新たにされています。」(Ⅱコリント四・16)の御言葉のごとく、2年前、2016年3月末をもって教団の引退牧師となりましたが、それ以後も色々な点で肉体の衰えや弱さを日々実感しています。しかし、イエス様を救い主として信じる信仰に15歳の時に導かれてから、今日までの68年間、聖書にふれ、神との交わりの時がゆるされ、素晴らしい信仰の先達方に教えられ、導かれ、主より牧師への召命を受け、種々の学び、訓練の時がゆるされ、55年間の牧会に国の内外を含めてあたらせて頂いてきて、何といっても感謝なことは、主の憐れみの故に、今が靈的に最も「幸い」な主との時がゆるされていることです。その具体的な始まりが、15歳の高一の時、東京の両国の旧国技館でもたれたPTL主催の特別伝道会に出席したことからです。キリスト教と全然関係のない環境に生い育ち、一度も教会にも、聖書にもふれたことのない者が、不思議なように導かれて、その晩、初めて聴いた聖書のメッセージを通して、自分が本当に罪深い者であること、当然滅びに至るものであること、そのような私の罪のために身代わりとして十字架にかかり、罪の罰を払い、死からよみがえって今も生きておられるイエス・キ

きよめの証し

栄光に輝くこの宝を土の器に



インマヌエル仙台キリスト教会 名誉牧師

田中 敬康

リストを自分の救い主として信じるなら、今晚でもただちに罪が赦され、永遠の生命を受けることができると思われ、その晩、自分の罪を告白し、イエス・キリストを自らの救い主として心に受け入れました。

その救いの素晴らしさは、与えられた聖書をむさぼり読むようになり、丸ノ内教会でもたれていた礼拝、祈り会などの諸集会を楽しみにして出席するようになり、福音の内容を十分には話せなかった者なのに、救いの喜びを学友たちや先生方にまで進んであかしするようになり、20名前後の友人や担任の先生も教会に出席するようになりました。そのうち、4名ほどが牧師となりました。

◆聖書の学びを重んじ「きよめ」を説く教会に

信仰をもった最初から、よき教会に導かれ、洗礼準備会でクリスチャン生活の基本を教えられ、日々のクリスチャン生活のあり方にもよき指導を頂いて、主にある交わりの中に育てられて行きました。そのような中で段々と自分の中にある問題を感じるようになりました。

具体的には、牧師への召命の問題でした。私には将来、医師になるという目標がありました。父は葉関係の仕事をしており、兄は薬学を専攻していたので、クリスチャンになったあとも、その目標に向けて、勉強していました。ところが、人から言われたわけではないのですが、主が直接伝道に召しておられることを段々と心に感じるようになり、約6か月ほど逃げ回っていました。イエス様の救いは本当に素晴らしかったので、信仰を捨てる気持ちはさらさらありませんでしたが、これだけはと、主に従うこと

ができませんでした。朝のデイポーシヨンの時、祈り始めると、主はこのことをまず従うようにと言われますので、祈ることもできなくなってきました。

高三の春に大きな聖会がもたれた折り、説教者のメッセージを通して、キリストのご愛が大波のように次々と私のかたくなな心に押し寄せ、溶かし、抵抗できないほどの豊かなキリストのご愛で心を満たして下さいました。文字通り、高三の時に、主に降参し、将来を主の御手におゆだねいたしました。これが献身と共に「きよめ」の信仰に立たせていただいた時です。

◆伝道者の召命にあずかり、今日までの学びと奉仕に導かれて

全生涯を直接伝道、牧会にあたるべく主に献げたあと、直面したのは、進学、専攻の問題でした。理系を得意としていた人間が、文系の学びに主体をおくようになった時の思考傾向、学びの時間配分などの実際問題でした。それらは、主に祈り、従っていくうちに、伝道者、牧者になる者の中心的心構えを聖書を通し、牧師の指導などを通して教えて頂き、学び、実践の中で、自らの弱さ、足りなさ、克服すべきことなどを示されながら、訓練を頂きました。Hi・b・aやKGGKを通じて、置かれている所で、伝道、学び、静思の時を持ってました。

特に神学院の入試の時に、面接官から次々に出される聖書の質問に、ほとんど即答することができない自らに直面し、主の御前に徹底的にへりくだらされ、全く主の用には寸足らずな者であることを痛感させられました。と同時に、このような者を主の全権大使として召して訓



練し整えてくださる主のご愛の豊かさを知らされ、心の底から陶器師なる主の憐れみの御手の中におちこまざるを得ないほど、主よりの取り扱いの時となりました。それ故に、3年間にわたる神学院での学び、実習、訓練の一つひとつは、大変と感じることの中にも、実に楽しい、有益な時でした。インドにおける3年間の学びにおいても祖国に戻って各地の任地における救霊、説教、牧会にあたって、生きて働いておられる主の恵みに生かされ、強められて、主の前に心を尽くしてあたってくることをゆるされました。

このような恵みの伝道者生活を送っている中で御言葉の光を通して取り扱われた一つの事があります。自らの思いや価値判断の根底に、未信者時代に植え付けられたその価値基準があつて、それに従って実際の行動が決定されていて、必ずしも聖書の価値判断が最終的判断の基準となっていない分野があるという光でした。それは、アブラハムの生涯において異邦人との関わりにみる行動判断の姿(創世記二〇章1〜14節、特に13節)からでした。これは「心(思念)の一新」(ローマ二二章2節)と関わる問題でもあります。

引退して以後、「栄光に輝くこの宝」のすばらしさを改めて、聖書の学びやきよめの良書や聖会のメッセージなどを時間をかけて学び、整理させて頂きつつ、心に深く味わせて頂いております。まさに、もろく、弱い「土の器」にすぎない者にも、この宝の豊かさが味わわれてきますとき、神の「作品」に変えられていくプロセスにあることを少しずつわからせていただいている昨今です。

2019年秋の聖化大会 講師ご紹介

ヒューバート・ハリマン博士

Dr. Hubert Hariman

ヒューバート・ハリマン博士は、宣教師であったご両親の任地、ポリビアで誕生されました。10歳のときに、召命のみ声を聞き、宣教師を志すこととなります。ベナード大学、エルサレム大学、インディアナ州のアンダーソン神学校で学びました。

宣教師としてアルゼンチンで奉仕したのち、インディアナ州で26年間牧会に携わります。その間に、WGMとの繋がりを持つようになり、南米やアフリカでの宣教・伝道の働きに関わり、青年たちのチームと共に奉仕されました。

2002年から2016年まで14年間、WGMの総理として重責を担われました。この間にWGMの改革を積極的に進め、大きな成果を収めました。このことによって、宣教師はもちろんのこと、エグゼクティブチーム、サポートスタッフに至るまで、WGMが一体となって宣教を推進することが可能になりました。「神さまがこのチームを一つにしてください」は、博士の感謝の祈りです。

博士は世界中の宣教地を訪問し、現地の諸教会、聖会、青少年のキャンプ、セミナー、リトリート、会議などでメインスピーカーを務められました。博士のモットーは、次のみことばに表されています。「働いたのは私ではなく、私とともにあった神の恵みなのです。」

ご家庭は、奥様のサラ夫人と、3人のお子さまがおられます。すでに、それぞれ立場で活躍しておられます。

博士の現在のお立場は、WGMの Ambassador at Large です。



2018年秋の聖化大会 講師は私たちの中から

日本の講師で行う聖化大会 日々きよめを生きるために



宗教改革500年を記念するさまさまなイベントが催された中で、昨年の聖化大会は意義深い画期的な大会でした。講師としてお迎えしたダイアン・レクラーク先生は歴史神学的な視点から語ってくださいました。改めて、教会歴史に流れる宗教改革、プロテスタントの伝統、そして敬虔主義や信仰復興運動の息吹、何よりも私たちホーリネスの系譜とその特徴や立場を確認することができました。

今年のご案内のとおり、外来の講師をお招きせず、私たちの仲間である日本人の講師によって聖化の説教を語っていただくことになりました。各地の交友会では、すでに今年の大会を終えたところもあります。この秋に開催される聖化大会については、8ページをご覧ください。

私たちの周りには素晴らしい説教者が揃っています。身近な器ならではの行き届いたメッセージを期待したいと思います。ぜひ聖化大会にご参加ください。

直次郎
かしてむ

彼は才能の使い方をまちがった ©富無尽蔵

バックストーンゆかりの地を訪ねて
きよめの信仰の原点となる松江市赤山

バックストーン 聖潔を生きた器

バックストーン著作集が次々と刊行され、改めてバックストンの残した霊的遺産に関心が向けられています。そうした折、JEF山陰大会がバックストーンゆかりの地である松江市で開催されました。セミナーでは、日本伝道隊の中島信光先生がバックストンの足跡や信仰について講演されました。

大会の会場となったのは、バックストーンがかつて奉仕した日本聖公会松江基督教会、そこにはバックストーンが実際に使った説教卓や愛用の聖書が残されていました。松江には、バックストーン邸のあった赤山をはじめ、生後間もなく召された嬰兒の墓所と、日本の宣教に、何よりも聖潔の恵みを伝えるために、心血を注いだバックストンの足跡がいたるところに残されています。



上：説教卓、中：愛用の聖書には署名が、下：愛児の墓石

News

日本福音連盟 (JEF)
東北大会・総会のご案内

明年2019年6月14日(日)夜から16日(火)昼まで、山形市での開催を予定しています。会場は山形南部教会です。詳細は「聖化」4月号で改めてお知らせします。聖会やセミナーが予定されています。

続々と、電子書籍化を進めます！

Amazon Kindleストアで発売中です



電子書籍第一弾、「エマオの道で」を販売中です。一昨年刊行された「聖化の説教 旧約編I」「聖化の説教 旧約編II」「聖化の説教 新約編」もすでに電子書籍として販売しています。Amazon Kindleストアで検索してください。

2018年秋に開催される各地の聖化大会

大会名	期日	講師
宮城聖化大会	9/17	島 隆三師
山形聖化大会	9/24	水間照弥師
関東聖化大会	10/14~16	石田 学師
東海聖化大会	10/20~21	青年大会/内山 勝師
ウェスレーに学ぶ会	10/19	学ぶ会の役員が担当
備前聖化大会	10/21	田代幸雄師

* 聖化大会についての詳細は、日本聖化協会のホームページ、Facebook、Twitter をご覧ください。各地域の聖化交友会のご案内が掲載されています。http://jha.christ.gr.jp/

JHA 創立 30 周年を記念する画期的な刊行事業！

聖化の説教 全3巻 (旧約編2巻、新約編1巻)



旧約編Ⅰ

定価 1,500 円＋税

創世記からエステル記まで、聖書の英雄的な行動や惨めな失敗、信仰の輝きが…。



旧約編Ⅱ

定価 1,500 円＋税

ヨブ記からマラキ書まで、知恵文学、詩歌、預言者によって語り継がれた聖化の恵み。



新約編

定価 1,800 円＋税

新約聖書の各巻から 25 の説教で聖化の恵みに触れることができる待望の説教集。

お近くの聖化交友会にご加入ください

聖化交友会には教団、教会、個人でお加わりいただけます。聖化の恵みを私たちの心に、そして教会に、さらにお住まいの地域に広げていきましょう。詳細は各地域の聖化交友会にお問い合わせください。

北海道聖化交友会／宮城聖化交友会／山形聖化交友会／栃木聖化交友会／関東聖化交友会／東海聖化交友会／ジョン・ウェスレーに学ぶ会／岡山聖化交友会／四国聖化交友会／九州聖化交友会

毎日のデイボーションのために

365 日の霊想 デニス・F・キンロー著

エマオの道で

世界でも屈指の説教者であったデニス・キンロー博士の著書です。365 日の恵みが満載です。短い聖句が取り上げられ、歴史的なエピソードや著者の体験、聖書の物語など、霊想が綴られています。

定価 3,400 円＋税



編集後記

聖化 64 号をお届けします。今年は異常な暑さと次々に襲う自然災害、ほんとうに厳しい夏になりました。被災された方々には心からお見舞い申し上げます。主のお支えがありますように。6月にバックストンゆかりの地、松江を訪ねました。赤山講話でよく知られている松江城下の小高い丘、

住まいのあった赤山にも寄りました。今は他の宗教施設が建っていて、バックストンの面影はありません。巨体のバックストンは、車夫への配慮から、必ず赤山の麓で人力車を降りたというエピソードを聞きました。こうしたことにも聖潔を文字どおり生きた器だったと感銘を受けました。(矢木良雄)

聖化 No.63 2018 年 9 月 25 日発行